

情報関係基礎

問 題	選 択 方 法
第1問	必 答
第2問	必 答
第3問	いずれか1問を選択し、解答しなさい。
第4問	

第1問 (必答問題)

次の問い(問1～3)に答えよ。(配点 30)

問1 次の文章a～dの空欄 **アイ** ～ **ケコ** に当てはまる数字をマークせよ。

ただし、ここでは負の数は扱わないものとする。

a 6桁の^{けた}2進数で表現できる数は、全部で **アイ** 通りある。

b 2進数001010は、10進数で **ウエ** である。

c 2進数001100を、4倍すると、6桁のうちその上位3桁は **オカキ** となる。また、同じ2進数001100を、 $\frac{1}{\text{ク}}$ 倍すると、000110となる。

d 6桁の2進数において、各桁の0と1を反転した2進数と、もとの2進数の和は、10進数で **ケコ** となる。

問 2 次の a～d の文章は、Web ブラウザと Web サーバ間の通信について説明したものである。空欄 **サ** ～ **ソ** に入れるのに最も適当なものを、下のそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

a Web ブラウザの所定の位置に、Web サーバのホスト名やドメイン名などによって構成される **サ** を入力すると、Web ページが閲覧できる。

b 通信先となる Web サーバの **シ** アドレスを得るために、Web ブラウザは **ス** を参照する。

c Web ブラウザは、通信先の Web サーバから必要なデータを受け取る。このとき、いくつかの **セ** によって、通信先の Web サーバとの通信経路が選択されている。

d 通信先の Web サーバから届けられるデータには、ページの構成や色、リンクなどが記述されている。Web ブラウザは、このデータの記述にしたがって、文字や画像を画面上に配置しページを構成する。このデータの主な記述言語に **ソ** がある。

サ ～ **ス** の解答群

- | | | | |
|------|-------|--------|----------|
| ① 絶対 | ② IP | ③ HTTP | ④ メール |
| ⑤ 相対 | ⑥ URL | ⑦ DNS | ⑧ 検索エンジン |

セ ・ **ソ** の解答群

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| ① MP3 | ② USB | ③ ルータ | ④ パケット |
| ⑤ UPS | ⑥ HTML | | |

情報関係基礎

問 3 次の文章を読み、空欄 ～ に入れるのに最も適当なものを、次ページのそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

自宅におけるパソコンからのインターネット接続方式について考えよう。図 1 は、平成 14 年及び 15 年の接続方法の割合を円グラフにしたものである。電話ダイヤルアップ接続の割合は減少している。それにかわって、大容量のコンテンツでも高速な送受信が可能となる 接続の割合が大きく増加し、平成 15 年にはインターネット接続方法の半数に迫っている。

図 2 は、平成 14 年及び 15 年における、 接続の契約数の通信路別内訳である。ADSL は現在もっとも普及している通信路であって、 を利用するという特徴を持っている。一方、FTTH は契約数としてはまだ少ないが、伝送距離が長くノイズの影響を受けにくい を用いるため、高速な通信を安定して提供することができる通信路である。

図 2 から、平成 14 年及び 15 年の 接続の総契約数がそれぞれ 940 万及び 1492 万であることから、 接続における CATV の契約数の割合は平成 14 年から 15 年にかけて したことがわかる。さらに図 1 とあわせて計算すると、平成 14 年から 15 年にかけて ISDN の利用者数は したことがわかる。

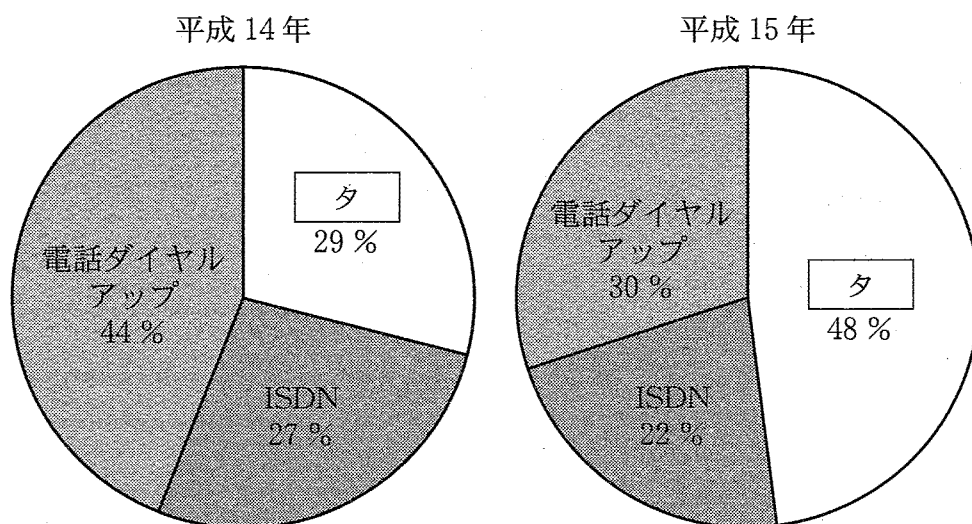


図 1 自宅におけるパソコンからのインターネット接続方法の割合
(平成 16 年度情報通信白書をもとに作成)

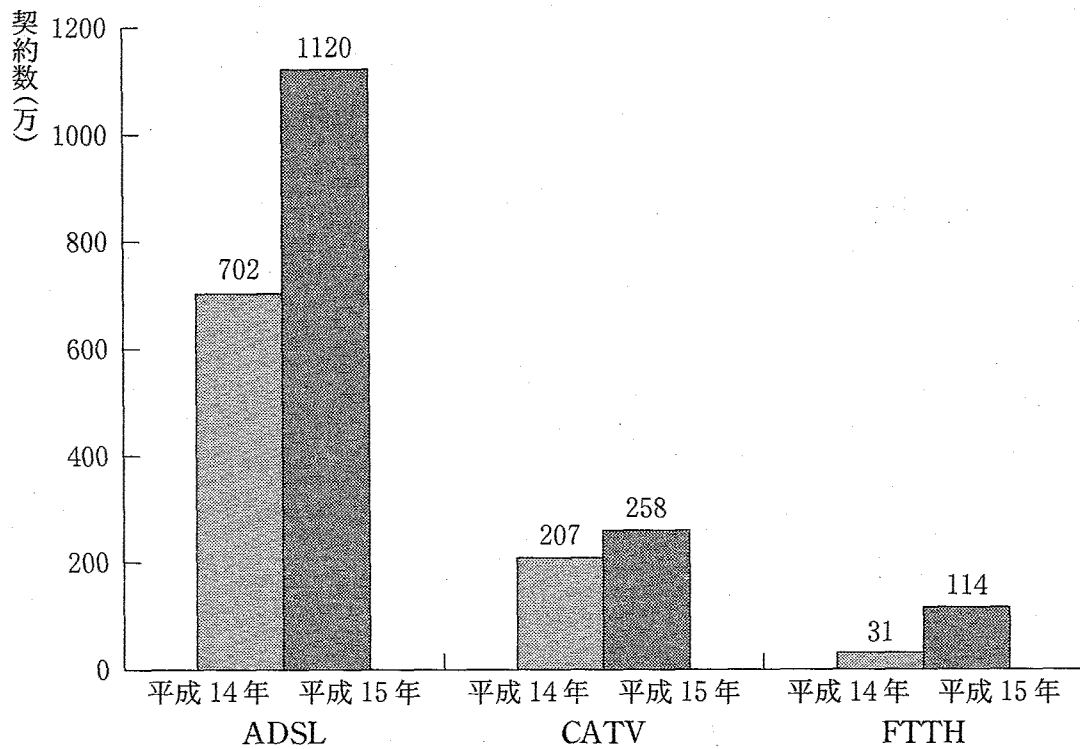


図2 タ 接続の契約数
(平成 16 年度情報通信白書をもとに作成)

- タ ~ ツ の解答群
- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| ① オンデマンド | ④ 光ファイバー | ⑦ CDMA |
| ② 定額制 | ⑤ 既設の電話回線 | ⑧ PHS |
| ③ イーサネット | ⑥ 同軸ケーブル | ⑨ ブロードバンド |

- テ の解答群
- | | | |
|----------|----------|---------|
| ① 5% 減少 | ④ 25% 減少 | ⑦ 5% 増加 |
| ② 25% 増加 | | |

- ト の解答群
- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 200 万人減少 | ④ 400 万人減少 | ⑦ 200 万人増加 |
| ② 400 万人増加 | | |

第2問 (必答問題)

次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 35)

毎年行われるあるサッカー大会の地区予選では、A、B、C、Dの4チームが総当たり戦を行い、次に示す「予選の順位付けルール」に従って、決勝に進出する2チームを決める。

予選の順位付けルール

- ・各試合において、それぞれのチームは勝敗に応じて次の勝ち点を得る。
勝ち：3 負け：0 引き分け(同点)：1
- ・予選の順位は、各チームの総勝ち点(対戦した全試合の勝ち点の合計)、得失点差(対戦した全試合の総得点から総失点を引いた値。総失点は取られた点の合計)及び前大会での順位を用いて、次の(1)～(3)の方法で決める。
 - (1) 総勝ち点の大きいチームを上位とする。
 - (2) 上記(1)で同位の場合は、得失点差の大きいチームを上位とする。
 - (3) 上記(1)、(2)でともに同位の場合は、前大会順位が上のチームを上位とする。
- ・予選で1位及び2位のチームが決勝に進出する。

各試合での各チームの得点は、0以上の任意の整数値を取り得るものとする。

いま、各チームが2試合を終えた時点で、表1に示す結果となっている。表1では、例えば、AチームはBには1対0で勝ち、Cには1対3で負けた、などを示している。残る2試合はA対D及びB対Cである。

表1 予選の中間結果

チーム	対戦相手				勝ち数	負け数	引き分け数	総勝ち点	総得点	総失点	得失点差	前大会順位
	A	B	C	D								
A	/	1—0	1—3		1	1	0	3	2	3	-1	1
B	0—1	/		2—1	1	1	0	3	2	2	0	2
C	3—1		/	1—1	1	0	1	4	4	2	+2	3
D		1—2	1—1	/	0	1	1	1	2	3	-1	4

問 1 次の文章を読み、空欄 **ア**・**イ** に当てはまる数字をマークせよ。
 また、空欄 **ウ** ~ **カ** に入れるのに最も適当なものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じものを繰り返し選んでもよい。

BチームのマネージャーのYさんは、残り2試合の結果がどうなれば決勝に進出できるのかが気になった。そこで、各試合ごとに結果を場合分けすることによって、次のa~cのような手順で決勝進出チームを求めることにした。

a まず、B対Cの試合後の両チームの総勝ち点を求めると、表2のようになる。

表2 B対Cの試合後の総勝ち点

B対Cの結果	Bの総勝ち点	Cの総勝ち点
BがCに勝つ	ア	4
引き分ける	4	イ
CがBに勝つ	3	7

b 次に、AがDに勝つ場合を考える。このとき、B対Cの結果に応じて、決勝進出チームは次のように決まる。

BがCに勝つ場合：**ウ** BとCが引き分ける場合：**エ**
 CがBに勝つ場合：**オ**

c AとDが引き分け、BがCに勝つ場合を考える。このとき、Bは決勝に進出する。また、**カ** の2チームが同じ総勝ち点で並び、得失点差及び前大会順位に応じて、このうちいずれか1チームが決勝に進出する。すなわち、決勝進出チームはB対Cの試合の得点差によって異なる。

ウ ~ **カ** の解答群

① AとB	② AとC	③ AとD
④ BとC	⑤ BとD	⑥ CとD

情報関係基礎

問 2 次の文章を読み、空欄 **キ** ~ **サ** に入れるのに最も適当なものを、下のそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、**コ**・**サ** の解答順序は問わない。

Yさんは次に、Bチームが決勝に進出するための条件を整理しようと考えた。Bが決勝に進出するか否かを、A対D、B対Cの結果ごとにまとめたものが、表3である。○は決勝進出する、×は決勝進出しない、△はA対Dの得点差に応じて双方の場合があり得ることを示す。

表3 Bの決勝進出の可否

	BがCに 勝つ	BとCが 引き分ける	CがBに 勝つ
AがDに勝つ	○	キ	×
AとDが引き分ける	○		×
DがAに勝つ	○	△	×

表3のほかに得点差も考慮して、Bが決勝に進出するための条件をまとめると、次のようになる。

ク

又は

(**ケ** かつ (**コ** 又は **サ**))

キ の解答群

①	○ △	②	○ ×	③	△ ○	④	△ ×	⑤	×	⑥	×

ク ~ サ の解答群

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① AがDに勝つ | ① AがDに2点以上の差で勝つ |
| ② AとDが引き分ける | ② DがAに勝つ |
| ③ DがAに2点以上の差で勝つ | ③ DがAに3点以上の差で勝つ |
| ④ DがAに1点差で勝つ | ④ DがAに2点以下の差で勝つ |
| ⑤ BがCに勝つ | ⑤ BとCが引き分ける |

問 3 次の文章を読み、空欄 **シス** ・ **セ** に当てはまる数字をマークせよ。
 また、空欄 **ソ** ・ **タ** に入れるのに最も適当なものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

Yさんは、わずか4チームの予選でも決勝進出条件が複雑であることに興味を持った。そこで、今度は36ページの表1の中間結果に限らず、4チームの総当たり戦で36ページの「予選の順位付けルール」を適用したときの一般的な性質を、さまざまな観点から考察した。その結果、次のa~dがわかった。

- a 全試合終了時の4チームの総勝ち点の合計は、最大で18, 最小で **シス** となる。
- b 総勝ち点が9もしくは **セ** のチームは、必ず決勝に進出する。
- c 4チームの得失点差の合計として取り得る値は、 **ソ** である。
- d 決勝進出するチームの得失点差として取り得る値は、 **タ** である。

ソ ・ タ の解答群

- | | |
|----------------|------------------|
| ① 0だけ | ① -1, 0, 1の3通りだけ |
| ② 正の整数値だけ | ② 0及び正の整数値だけ |
| ③ 2で割り切れる整数値だけ | ③ 任意の整数値 |

第3問 (選択問題)

次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 35)

図1のような格子状にマス目が並んだ世界を考え、その中で周囲の状況によって誕生、消滅を繰り返すものを生命体と呼ぶこととする。各々のマスには、生命体が一つ存在するか、存在しないかのどちらかである。生命体の初期配置を与え、すべてのマスで次のルールに従った世代交代を同時に行い、その変化を観察する。

- ・生命体が存在していないマスで、隣接するマス(縦・横・斜めの8か所)に三つの生命体が存在するとき、次の世代では新しい生命体が誕生する(図2の例)。
- ・生命体が存在するマスで、隣接するマスの生命体の個数が一つ以下もしくは四つ以上のとき、その生命体は次の世代では消滅する(図3の例)。
- ・それ以外のマスは現状を維持する。

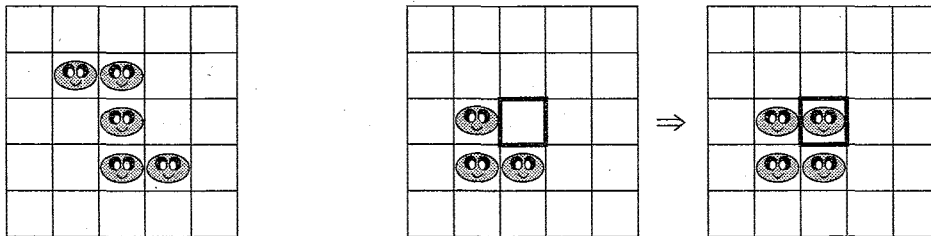


図1 生命体の配置例 図2 生命体の誕生 (隣接するマスに三つの生命体)

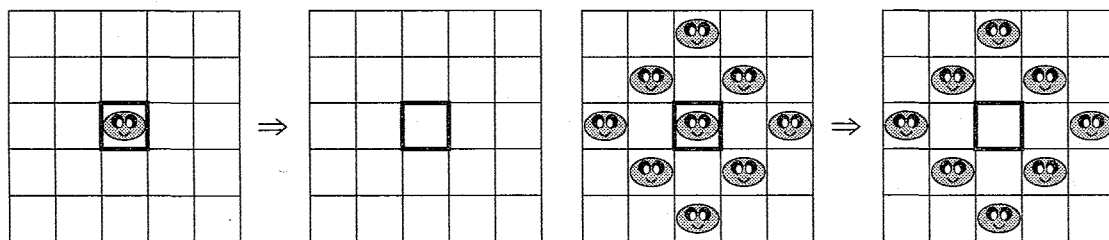


図3 生命体の消滅 (隣接するマスに一つ以下または四つ以上の生命体)

問1 次の文章を読み、空欄 **ア** ～ **エ** , **ク** に当てはまる数字をマークせよ。また、空欄 **オ** ～ **キ** に入れるのに最も適当なものを、次ページの解答群のうちから一つずつ選べ。

生命体の次の世代での配置を求めるには、各マスに隣接する生命体の数を数え、ルールを適用すればよい。いま、第1世代として図4(a)のように生命体を配置する。なお、これらのマスの外には生命体は存在せず、新たに誕生する

こともないものとする。このとき、各マスに隣接する生命体の数を記すと、図4(a')のようになる。ルールより、次の世代に生命体が配置されるのは3が記されたマスと、2が記されたもののうち生命体が既に存在しているマスのみである。これより、第2世代の生命体の配置は図4(b)となる。

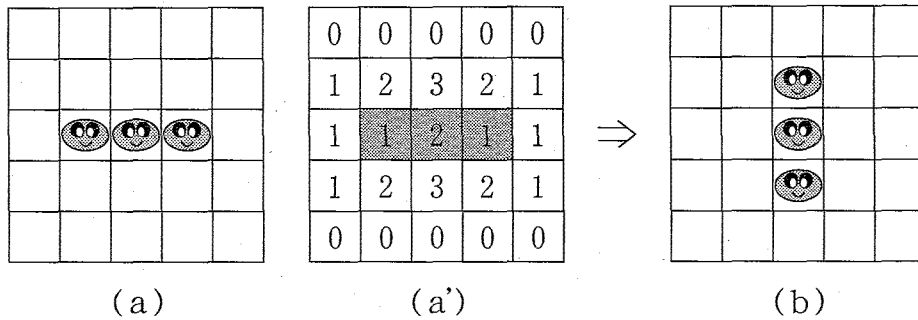


図4 第1世代から第2世代への世代交代

第2世代の各マスに隣接する生命体の数を記すと、図5のようになるので、第3世代の生命体の配置は **オ** となる。同様に考えると、第4世代の生命体の配置は **カ** となる。

0	1	1	1	0
0	2	ア	2	0
0	イ	2	ウ	0
0	2	エ	2	0
0	1	1	1	0

図5 隣接する生命体の数


また、第1世代として図1のように生命体を配置した場合、第2世代の生命体の配置は **キ** となり、第 **ク** 世代以降はすべての生命体が消滅する。

オ ~ **キ** の解答群

① ② ③ ④ ⑤

問 2 次の文章を読み、空欄 **ケ** に当てはまる数字をマークせよ。また、空欄 **コ** に入れるのに最も適当なものを、次ページの解答群のうちから一つ選べ。

隣接するマスに存在する生命体の数を求める手順を考える。

左から x 列目、上から y 行目のマスを (x, y) と表すこととし、図 6(a) のように生命体の配置を表す 2 次元配列 s を用意する。 $s[x, y]$ の値は (x, y) に生命体が存在すれば 1、存在しなければ 0 とする。なお、1 行目と 7 行目、及び 1 列目と 7 列目のマス(図 6 の  の部分)には生命体は置かず、世代が進んでも生命体は誕生しないものとする。また、隣接する生命体の数を計算した結果を入れるために配列 R を用意する。 R の内容は、 (x, y) に隣接する生命体の数が $R[x, y]$ に入ることとなり、計算後には図 6(b) のようになる。

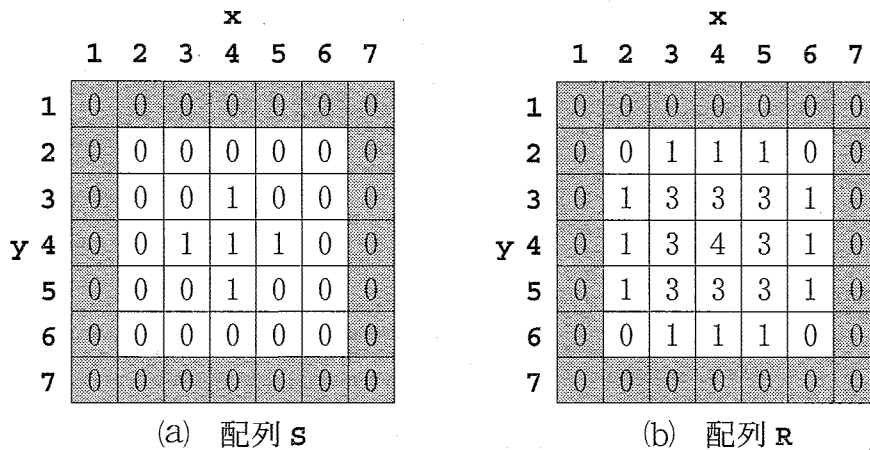


図 6 配列 s , R の内容

それぞれのマスに着目し、隣接する 8 個のマスを図 7 のように番号を付ける。 (x, y) に隣接するマス i の位置を、配列 Dx , Dy を用いて $(x+Dx[i], y+Dy[i])$ で表すこととする。このとき、 Dx , Dy の値は表 1 に示すような (x, y) からの相対位置を表す。

隣接するマスの生命体の数を計算するためには、生命体を置くことができる各マス(図 6 参照)に関して隣接するマスをすべて調べる。 s の値は生命体が存在すれば 1、そうでなければ 0 なので、 R の値は隣接するマスの s の値をすべて加えればよいことになる。

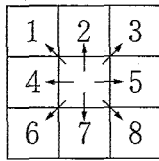


図7 隣接するマスの番号

表1 配列 Dx, Dy の内容

i	1	2	3	4	5	6	7	8
Dx[i]	-1	0	1	-1	1	-1	0	1
Dy[i]	-1	-1	-1	0	0	1	1	1

図8は、この考え方をを用いて、隣接するマスの生命体の数を計算して、Rに記録する手順である。

(01) Rのすべての値を0に初期化する

(02) xを2から6まで1ずつ増やしながら、

(03) yを2から6まで1ずつ増やしながら、

(04) iを1から ケ まで1ずつ増やしながら、

(05) $R[x,y] \leftarrow R[x,y] +$ コ

(06) を繰り返す

(07) を繰り返す

(08) を繰り返す

図8 隣接するマスの生命体の数を求める手順

コ の解答群

<p>① 1</p> <p>② $S[x+i, y+i]$</p> <p>④ $R[x+i, y+i]$</p>	<p>① $S[x, y]$</p> <p>③ $S[x+Dx[i], y+Dy[i]]$</p> <p>⑤ $R[x+Dx[i], y+Dy[i]]$</p>
--	---

情報関係基礎

問 3 次の文章を読み、空欄 **サ**， **ス** に当てはまる数字をマークせよ。
また、空欄 **シ** に入れるのに最も適当なものを、次ページの解答群のうちから一つ選べ。

問 2 に示した手順に続き、次の世代の生命体の配置を求める手順を考える。

前ページの図 8 の手順により、 (x, y) に隣接する生命体の数 $R[x, y]$ が計算できているので、これを参照すれば、次の世代に生命体が存在するかどうか決定できる。

問 1 で述べたように、次の世代に生命体が存在するマスは、隣接するマスに生命体が三つあるものと、現世代で生命体が存在するマスで隣接するマスに生命体が二つあるもののみである。それ以外の場合は、現世代で生命体が存在していても次の世代では消滅する。これらを整理すると、生命体の配置 s を更新する手順は、図 9 のようになる。

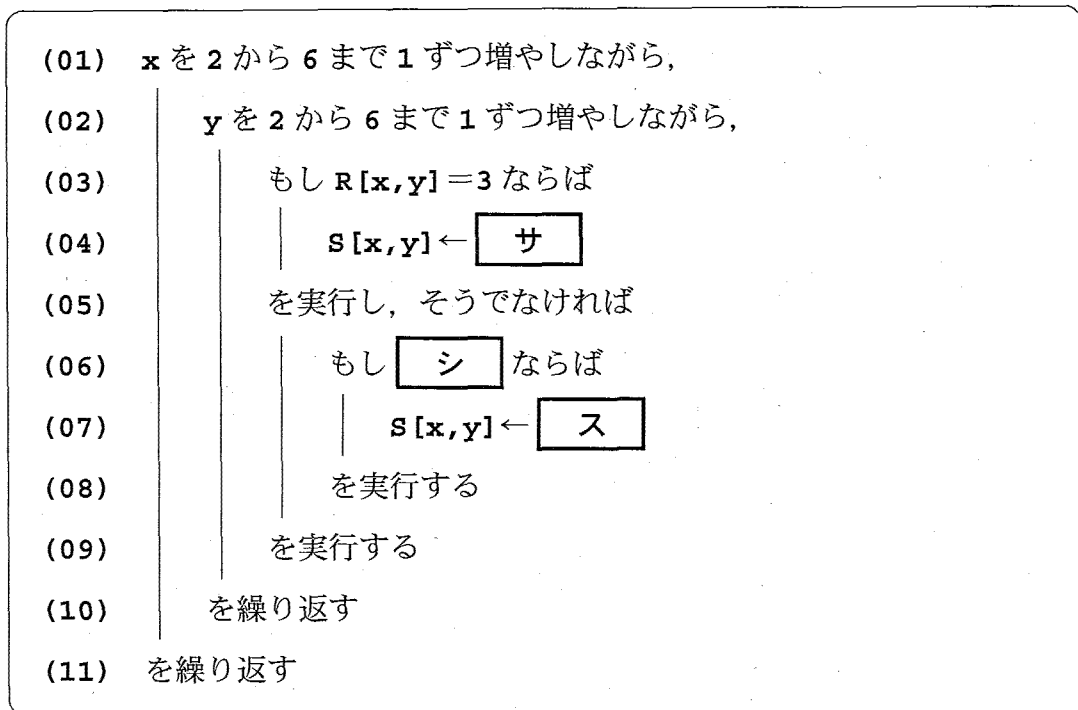
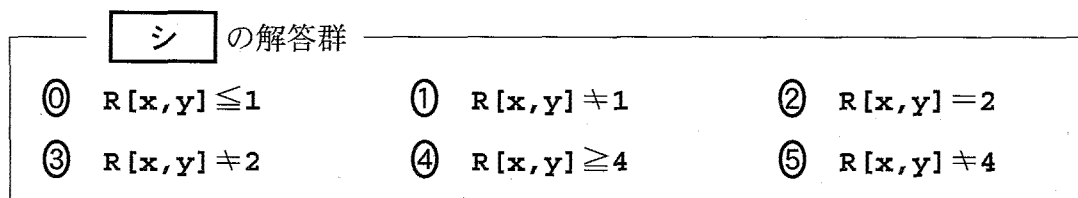


図 9 次の世代の生命体の配置を求める手順



第4問 (選択問題)

使用する表計算ソフトウェアの説明は、51ページに記載されている。

次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 35)

表1に示すワークシート料金体系は、ある通信会社のサービスのうち、通話サービスの料金体系を示している。通話料金は、基本料金と通話時間に応じた通話料からなり、松コースと桜コースには、毎月それぞれ3000円分と1000円分の無料通話サービスがある。ただし、無料通話サービス分に使い残しがあったとしても翌月に繰り越すことはできない。なお、通話時間の単位は分である。

ここで表2のワークシート利用状況にある梅コース利用者を想定して、各コースのシミュレーションを行う。

表1 ワークシート料金体系

	A	B	C	D
1	料金体系			
2	コース名	松	桜	梅
3	月額基本料金(円)	5000	1000	2000
4	無料通話分(円)	3000	1000	0
5	昼間通話料金(円/分)	20	35	40
6	夜間通話料金(円/分)	20	35	10

表2 ワークシート利用状況

	A	B	C	D
1	利用状況			月間通話料金
2	利用月	昼間通話時間	夜間通話時間	梅
3	1	60	130	
4	2	30	80	
5	3	90	120	
13	11	60	90	
14	12	70	100	
15	平均			

問 1 次の文章の空欄 **ア** ~ **カ** に入れるのに最も適当なものを、下のそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

まず、表 2 から、1 か月当たりの昼間と夜間の平均通話時間を求めることにする。ただし、小数点以下を切り捨てることとする。そのため、B15 番地に計算式 $\text{INT}(\text{ア}(\text{イ}))$ を入力し、C15 番地に複写した。

次に、それぞれの月の料金を求めるために、計算式 **ウ** を D3 番地に入力し、セル範囲 D4~D14 に複写した。

D15 番地に平均月間通話料金を求めるには、セル範囲 **エ** の平均と考える **オ** 番地の計算式を複写するやり方と、昼間と夜間の平均月間通話時間に表 1 の料金体系を適用すると考えて **カ** 番地の計算式を D15 番地に複写するやり方がある。ここでは後者を選んだ。

- ア** の解答群
- ① MAX ② MIN ③ SUM ④ AVG

- イ**, **エ** ~ **カ** の解答群
- ① A3~A14 ② B3~B14 ③ C3~C14 ④ D3~D14
 - ⑤ A3 ⑥ B3 ⑦ C3 ⑧ D3
 - ⑨ B15

- ウ** の解答群
- ① 料金体系!\$B\$3+料金体系!\$B\$5*C3+料金体系!\$B\$6*B3
 - ② 料金体系!\$C\$3+料金体系!\$C\$5*C3+料金体系!\$C\$6*B3
 - ③ 料金体系!\$D\$3+料金体系!\$D\$5*C3+料金体系!\$D\$6*B3
 - ④ 料金体系!\$B\$3+料金体系!\$B\$5*B3+料金体系!\$B\$6*C3
 - ⑤ 料金体系!\$C\$3+料金体系!\$C\$5*B3+料金体系!\$C\$6*C3
 - ⑥ 料金体系!\$D\$3+料金体系!\$D\$5*B3+料金体系!\$D\$6*C3

情報関係基礎

問 2 次の文章の空欄 **キ** ~ **ス** に入れるのに最も適当なものを、次ページのそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

松コースと桜コースについても1か月当たりの平均通話料を求め、三つのコースの中で最適なコースを選択することを考える。そこで、表3のようにワークシート利用状況に列D、Eを挿入し、行16を追加した。そして、松コースと桜コースの料金を求めるため、以下の計算式をD3番地に入力し、セル範囲D4~D15とセル範囲E3~E15に複写した。

$$\text{キ} + \text{ク} (0, \text{ケ} - \text{コ})$$

次に、最適コース名の表示のため、以下の計算式をB16番地に入力した。

$$\text{PICKUP}(\text{サ}, \text{シ} (D15 \sim F15), \text{ス})$$

表3 ワークシート利用状況

	A	B	C	D	E	F
1	利用状況			月間通話料金		
2	利用月	昼間通話時間	夜間通話時間	松	桜	梅
3	1	60	130			5700
4	2	30	80			4000
5	3	90	120			6800
13	11	60	90			5300
14	12	70	100			5800
15	平均	59	109			5450
16	最適コース					

表1(再) ワークシート料金体系

	A	B	C	D
1	料金体系			
2	コース名	松	桜	梅
3	月額基本料金(円)	5000	1000	2000
4	無料通話分(円)	3000	1000	0
5	昼間通話料金(円/分)	20	35	40
6	夜間通話料金(円/分)	20	35	10

キ , **コ** の解答群

- ① 5000 ② 3000 ③ 2000 ④ 1000
- ⑤ 料金体系!B\$3 ⑥ 料金体系!\$B3 ⑦ 料金体系!B\$4
- ⑧ 料金体系!\$B4 ⑨ 料金体系!B\$5 ⑩ 料金体系!\$B5

ク , **シ** の解答群

- ① MAX ② MIN ③ SUM ④ AVG

ケ の解答群

- ① \$B3*料金体系!B5 ② \$B3*料金体系!B\$5+\$C3*料金体系!B\$6
- ③ \$B3*料金体系!B\$5 ④ B\$3*料金体系!B\$5+C\$3*料金体系!B\$6
- ⑤ B\$3*料金体系!\$B5 ⑥ B3*料金体系!B5+C3*料金体系!B6

サ , **ス** の解答群

- ① D3~D14 ② E3~E14 ③ F3~F14 ④ D2~F2
- ⑤ D3~F3 ⑥ D15~F15 ⑦ B15~C15 ⑧ B3~C14
- ⑨ D3~F14

情報関係基礎

問 3 料金体系と、全通話時間に対する夜間通話時間の割合(夜間割合)の変化によって、月間通話料金がどのようになるかシミュレーションを行った。図1は、夜間割合を8割と設定した場合の月間通話料金を示したものである。シミュレーションの結果を正しく記述しているものを、下の解答群のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。 **セ** ・ **ソ**

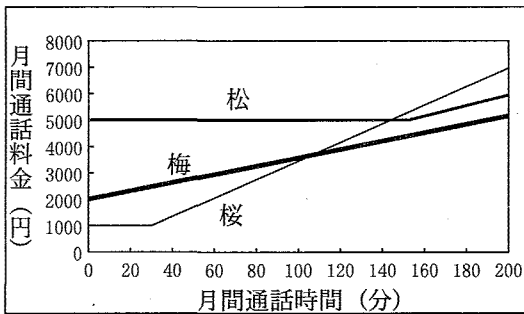


図1 料金グラフ

表1(再) ワークシート料金体系

	A	B	C	D
1	料金体系			
2	コース名	松	桜	梅
3	月額基本料金(円)	5000	1000	2000
4	無料通話分(円)	3000	1000	0
5	昼間通話料金 (円/分)	20	35	40
6	夜間通話料金 (円/分)	20	35	10

セ ・ **ソ** の解答群

- ㉠ 夜間割合を8割から5割にすると、桜コースの方が松コースより料金が安い範囲は、広くなる。
- ㉡ 夜間割合を8割から5割にすると、桜コースの方が梅コースより料金が安い範囲は、狭くなる。
- ㉢ 夜間割合が8割より大きいと、桜コースの方が梅コースより料金が安い範囲は、図1より狭くなる。
- ㉣ 夜間割合や月間通話時間にかかわらず、梅コースが松コースより料金が安い。
- ㉤ 梅コースの昼間通話料金が20円/分の場合、夜間割合が5割として梅コースのグラフを描いても、図1の梅コースのグラフより上になることはない。
- ㉥ 夜間だけしか使わないとすると、月間通話時間にかかわらず梅コースの料金が一番安い。

【使用する表計算ソフトウェアの説明】

四則演算記号：四則演算記号として+, -, *, /を用いる。

セル範囲：開始のセル番地～終了のセル番地という形で指定する。

絶対参照：参照するセル番地を固定して数式を他のセルに複写するとき、**\$A\$1**のようにセル番地の列、行の文字や番号の前に記号**\$**を付けると、特定の位置にあるセルを常に参照することができる。

ワークシート参照：別のワークシート中のセルやセル範囲を参照するとき、別表**!B6**あるいは別表**!B1~B6**のようにワークシート名と記号**!**を付けると、特定のワークシート中のセルやセル範囲を参照することができる。

MAX(セル範囲)または**MAX(式1, 式2, …, 式n)**：セル範囲にあるセル内の数値または式1, 式2, …, 式n内の数値の最大値を求める。

MIN(セル範囲)または**MIN(式1, 式2, …, 式n)**：セル範囲にあるセル内の数値または式1, 式2, …, 式n内の数値の最小値を求める。

SUM(セル範囲)：指定されたセル範囲にあるセル内の数値の合計を求める。

AVG(セル範囲)：指定されたセル範囲にあるセル内の数値の平均を求める。

INT(計算式)：計算式の演算結果の小数部を切り捨てて整数化する。例えば、**INT(5/3)**は1であり、**INT(6/3)**は2である。

PICKUP(セル範囲1, 式, セル範囲2)：セル範囲1中で式と等しい値を持つ最初のセルに対応するセル範囲2中のセルの値を求める。例えば、次の表Aでは、**PICKUP(B1~B5, "え", C1~C5)**は“B”となる。

表A ワークシートの例

	A	B	C
1	0	あ	A
2	10	い	B
3	20	う	C
4	30	え	B
5	40	お	D

補 足 説 明

数学②(別冊) 「情報関係基礎」

34 ページ 第1問 問3

テ

ここでは、平成14年の割合と15年の割合の差を求める。

例えば、平成14年が50%、15年が60%の場合は、10%増加とする。